

岡山大学病院リハビリテーション科 専門研修プログラム



I. プログラム概要

リハビリテーション科専門医とは「病気、外傷や加齢などによって生じる障害の予防、診断、治療を行い、機能の回復並びに活動性の向上や社会参加に向けてのリハビリテーションを担う医師」です。本研修プログラムは、リハビリテーション科専門医となるために、適切な教育を行い、十分な知識と技術を身につけるために充実した構成になっています。岡山大学病院を中心として様々な病院で研修することが可能であり、幅広い経験ができるプログラムです。

1) 到達目標

リハビリテーション医学が担当する疾病や障害は、(1)脳卒中、外傷性脳損傷など、(2)脊髄損傷、脊髄疾患、(3)骨関節疾患、骨折、(4)小児疾患、(5)神経筋疾患、(6)切断、(7)内部疾患、(8)その他(廃用症候群、がん、疼痛性疾患など)であり、専門医には幅広い知識と経験が必要です。また、リハビリテーションはできるだけ早期に開始するのが基本であり、また一方回復期から生活期まで、長期的に診ていく必要があります。本プログラムは、疾病や障害を横断的に診ることと時間的な経過を診るという両面の研修を達成することを目標とし、大学病院(主に急性期医療)、回復期リハビリテーション病院、小児医療・療育センター、介護関連施設、更生相談所などが協力し充実した研修環境を提供します。さらに、障害を持つ方々が地域で安心した生活を送れるように地域リハビリテーションならびに地域医療の実践も欠かせません。研修施設は、人口約70万人の岡山市と主として岡山県・広島県・香川県内の中核都市にあります。それぞれがへき地医療、介護サービスとも連携しており、生活機能を考えるリハビリテーションの研修が配慮されています。なお、研修カリキュラムの項目、ならびに項目ごとの達成目標については、日本リハビリテーション医学会研修カリキュラムに詳細を記載しています。

2) 教育ポリシー

岡山大学病院は、特定機能病院として高い専門性を有し、基本領域とサブスペシャリティの幅広い診療科における専門医研修体制を構築しています。特に肺移植は100例を超え、小児心臓外科も全国的に有名です。リハビリテーションにおいても高度な医療を実践しており、年間約12万単位を治療しています。高度な医療では連携が非常に重要であり、病院全体で交流が盛んです。例えば、麻酔科が中心でPERIO(周術期管理センター)というシステムが稼働しています。外科的な治療が決定すると、PERIOナース、麻酔科、リハ部、歯科、薬剤部、栄養管理などが術前から一斉に稼働し、術後も自動的にスタートするシステムであり、リハ部もチームの一環として参加しています。また、スポーツ医学では、岡山県のプロサッカーチームや天満屋女子陸上部といったプロ選手の障害について、整形外科、循環器内科、一般内科、脳外科などと連携して治療しています。整形外科をはじめ、脳外科・神経内科、救急科、小児神経科、リエゾンなどのカンファレンスに参加し、症例について検討しています。病院全体で非常に仲良く、厳しい中にも和気あいあいとしています。専門医研修では幅広い知識や技術を習得することはもちろんですが、同時に専門医としても人間性や指導力も身につけていただくよう考えています。

II. 岡山大学病院の概要

所在地 700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1 (右図)
病院長 金澤 右
病床数 849床
職員数 1,682人
患者数 入院 262,731人 外来 462,336人 (平成26年)
手術件数 医科 17,740件 歯科 10,250件 (平成26年)
病理解剖 28件 (平成26年)

総合リハビリテーション部・リハビリテーション科

心大血管リハビリテーション(I)

脳血管リハビリテーション(I)

運動器リハビリテーション(I)

呼吸器リハビリテーション(I)

がんリハビリテーション

スタッフ 医師3名 PT 27名 OT 7名 ST 4名 Nrs 1名



III. 募集定員

2 名

IV. 研修期間

平成31年4月1日～平成34年3月31日

V. 募集期間・方法

平成30年9月1日～10月1日



必要書類

申請書

履歴書

医師免許証

臨床研修修了登録証(コピー)あるいは修了見込証明書

送付先

700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1 岡山大学病院

総務課総務グループ卒後研修担当主査

西尾広治

選考方法

面接

専門研修プログラムに関する問い合わせ・資料請求

700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1 岡山大学病院

総務課総務グループ卒後研修担当主査

西尾広治

電話: (086) 235-7508 FAX: (086) 235-7636

e-mail: sotsugo@adm.okayama-u.ac.jp

VI. 研修施設

1) 基幹研修施設

岡山大学病院リハビリテーション科

研修プログラム統括責任者: 千田 益生 (教授・診療部長)
指導責任者: 千田 益生

2) 連携研修施設

① 吉備高原医療リハビリテーションセンター

指導責任者: 古澤一成(リハビリテーション科長)

② 川崎医科大学リハビリテーション科

指導責任者: 椿原彰夫(川崎医療福祉大学学長)

③ 旭川荘医療療育センター

指導責任者: 赤澤啓史(病院長)

④ 岡山市民病院

指導責任者: 難波孝礼(リハビリテーション科長)

⑤ 岡山済生会総合病院

指導責任者: 奥谷珠美(リハビリテーション科長)

⑥ 岡山赤十字病院

指導責任者: 西本めぐみ(リハビリテーション科長)

⑦ 岡山リハビリテーション病院

指導責任者: 森田能子(リハビリテーション科長)

⑧ 岡山西大寺病院

指導責任者: 花川志郎(病院長)

⑨ 笠岡第一病院

指導責任者: 橋詰博行(病院長)

⑩ しげい病院

指導責任者: 清水弘毅(リハビリテーション科長)

⑪ 福山市民病院

指導責任者: 藤井俊宏(リハビリテーション科長)

⑫ 日本鋼管福山病院

指導責任者: 高原康弘(リハビリテーション科長)

⑬ かがわ総合リハビリテーションセンター

指導責任者: 木下 篤(病院長)

⑭ 神戸赤十字病院

指導責任者: 戸田一潔(リハビリテーション科長)

3) 関連研修施設

① 香川労災病院

指導責任者: 太田裕介(リハビリテーション科長)

② 金光病院

指導責任者: 千田益生

③ 井原市民病院

指導責任者: 千田益生

連携研修施設Aの特徴

①吉備高原医療リハビリテーションセンター

岡山県中央部にあるリハビリテーションに特化した病院。脊髄損傷、切断が多く経験できる。

②川崎医科大学リハビリテーション科

リハビリテーション医学全般に充実した研修ができる。特に回復期リハの研修を目的として1年間の研修予定。

③旭川荘医療療育センター

脳性麻痺、先天性股関節脱臼、内反足などの小児リハが特徴。岡山市の北部にあります。

④岡山市民病院

岡山市内の急性期病院。救急、リウマチ、脳卒中などが特徴。岡山駅から一駅の北長瀬駅に隣接しています。

⑤岡山済生会総合病院

岡山市内の急性期病院。外傷、手の疾患、膝などが特徴。岡山駅から徒歩5分ぐらいの場所にあります。

⑥岡山赤十字病院

岡山市内の急性期病院。救急、骨折、肩などが特徴。岡山大学から約2km南にあります。

⑦岡山リハビリテーション病院

岡山市内の回復期リハ病院。回復期リハの充実した研修が可能。岡山大学から車で約15分ぐらいのところにあります。

⑧岡山西大寺病院

裸祭りで有名な西大寺にある急性期病院。外傷、関節などが特徴。

⑨笠岡第一病院

笠岡市にある急性期病院。風光明媚な場所にあります。手の疾患のリハが多く経験できる

⑩しげい病院

倉敷市にある急性期および回復期病院。透析のリハをがんばっています。

⑪福山市民病院

広島県福山市にある急性期病院。救急、骨折に特徴があります。

⑫日本鋼管福山病院

広島県福山市にある急性期病院。関節、スポーツ障害、外傷に特徴。

⑬かがわ総合リハビリテーションセンター

岡山市とは瀬戸大橋を隔てた高松市にあるリハビリテーションに特化した病院。様々な疾患が経験できます。

⑭神戸赤十字病院

にぎやかな都市、神戸市にある急性期病院。外傷、脊椎疾患に特徴。


VII.研修コース

研修コース



研修施設全体の症例数

脳血管障害	15000例
脊損・脊椎疾患	3000例
骨関節疾患	25000例
小児疾患	2900例
神経筋疾患	1300例
切断	400例
内部障害	6500例
その他(がんなど)	11000例

 選択(吉備リハ, 旭川荘も選択可)

研修コースには左に示すように様々な選択が可能です。最初は岡山大学病院で研修すること、回復期病院に6ヶ月以上在籍することなどの条件を満たすように設定しています。選択の期間は希望する研修病院での研修が可能です。

VIII. 専門研修プログラム管理委員

千田益生	岡山大学病院リハ科	教授
堅山佳美	岡山大学病院リハ科	助教
尾崎敏文	岡山大学整形外科	教授
野田知之	岡山大学整形外科	教授
宮澤慎一	岡山大学整形外科	講師
徳弘昭博	吉備高原リハセンター	病院長
赤澤啓史	旭川荘医療センター	病院長

XI. カンファレンスなど

原則として、専攻医のためのカンファレンスは原則月1回行います。症例について、医学的な問題点、リハをする上での評価・診断の難渋した点、また現在行っている研修の問題点などを話し合いができるように設定します。

いろいろな問題が生じたときには、遠慮せずにご言ってください。解決し、リハビリテーション専門医になっていただくようみんなで努力していきます。